

京セラ株式会社

2015年3月期 第1四半期 決算カンファレンスコールでの主な質疑応答内容

(2014年7月31日実施)

【業績全般】

Q：第1四半期に関して、セグメント別に想定より良かったところ、悪かったところについて教えてほしい。

A：収益で計画を上回ったのはファインセラミック部品関連事業、電子デバイス関連事業、情報機器関連事業、その他事業の4つ。

Q：第2四半期以降の見方について、変化はあるか。

A：元々、第1四半期の計画は低目に設定しており、第2四半期より上がっていく計画。足元、計画より下回っている部門についても通期でキャッチアップするが、第2四半期だけで第1四半期の進捗遅れを取り戻すことは難しい。

Q：ファインセラミック部品、電子デバイス関連事業についてはどうか。

A：計画以上の進捗だった。今後も悪くなる見通しはない。

【半導体部品関連事業】

Q：有機パッケージは、計画比ではどうだったか。

A：セラミックパッケージと有機パッケージとに分けて開示はしていないが、トータルでは計画をほぼ捉えている。

Q：有機パッケージ事業が遅れているということか。

A：その通り。

Q：半導体部品関連事業で、前期第4四半期に比べ、利益率が低下している理由は何か。

A：有機パッケージの価格下落の背景は、競合が多いため価格競争に巻き込まれやすい環境にある。ある品種で想定以上に価格が下落し、原価低減が追いつかなかった。

Q：有機基板事業で子会社2社の統合を行ったが、それにより費用は発生しないか。逆に統合により期待できる固定費の削減など、大きな費用減はどのようなものがあるか。

A：システム統合や移転に伴う費用などの統合費用は発生するが、大きなものはない。

逆に期待できることは、営業拠点の集約による費用減少や、材料の調達量が増加し、一括購入することによるメリットなどがある。

【ファインセラミック応用品関連事業】

Q：前期第4四半期から今期第1四半期にかけて、売上が減少しているが、ソーラーエネルギー事業が要因か。価格下落が加速したとの話があったが、どういう背景で起きたのか。

A：減収の多くの部分がソーラーエネルギー事業。太陽電池モジュールの価格は年々下がっており、当初の予想より早く低下している。

Q：当初の価格下落の見通しは、2桁を超える程度だったと思うが、想定以上に下落している背景は。

A：競合の海外勢に引きずられている。

Q：産業用の売上が第2四半期以降、戻ってくるのか。

A：第2四半期以降に戻ってくる。これから受注するメガソーラー案件ではなく、前期の受注分の一部が第2四半期以降の売上に貢献する。第1四半期には大型案件はなかった。

Q：今期第1四半期の受注は、前期第4四半期と比較して売上ほどは減少していないが、今後の需要見通しについて。

A：まだまだ需要はあり、これを確実に捉えてキャッチアップしていく。

【通信機器関連事業】

Q：前期第1四半期も期ズレの問題があった。今回と前回との意味合いは異なるのか。

A：前期第1四半期の期ズレの要因は部材入手不足だったが、今回は顧客からの認定が遅れた。現在は認定されている。

Q：海外の売上がずれた分、収益に影響しているということか。

A：その通り。開発費だけがかかって、売上貢献ができなかった。

Q：通信機器関連事業の戦略を再考する考えはないのか。

A：収益を上げる、販売先を増やすという根本的な戦略を変更する必要はないと考えている。

Q：第1四半期の遅れを今期挽回するのは厳しいのではないか。

A：新製品の認証活動などの今期のアクションは既に決まっており、その通り実行すればキャッチアップは可能。

以上